

## 口腔内マッサージと嚥下体操の実践 一嚥下機能の低下した利用者 に対する取り組み

平成23年7月25日  
特別養護老人ホーム 伊豆白寿園  
ケアワーカー 三田 奈緒美



## 伊豆白寿園の概要

所在地 静岡県田方郡函南町平井750

施設種別 特別養護老人ホーム

開設年月 昭和53年6月

定員数 入所者 70名 ショートステイ 10名

特徴 建物は従来型の施設ですが、3つのユニットに職員を固定し、利用者との心とこころの触れ合いを重視しております。



## 食事班とは・・・

1F	ユニット リニア	職員	● ● ● ● ● ● ● ●
2F	ユニット リニア	食事班 排泄班 入浴班 研修班	● ● ● ● ● ● ● ●
南館	ユニット リニア		● ● ● ● ● ● ● ●



## 実施目的

- ❖ パースト食から形のある食形態への変更を目指す。
- ❖ 嚥下状態を良好に保つことで、誤嚥の防止に繋げたい。



## 取り組みの経緯

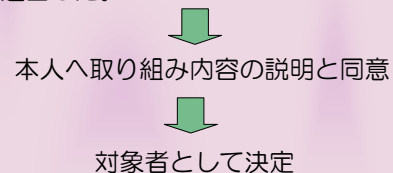
- 【平成22年4月】  
対象者候補を挙げ、方向性を決定した。
- 【同年5月】  
取り組み内容を決定し、準備を開始した。
- 【同年6月～8月】  
取り組みを実施した。
- 【同年9月】  
取り組みの振り返り（評価）を行った。



## 取り組み内容(1)

### 1.対象者

嚥下機能の低下がみられている利用者を各フロア（全3フロア）より1名ずつ選出した。



## 取り組み内容(2)

### 2.実施方法

- 1) 朝食、夕食前にマンツーマンで嚙下体操と口腔内マッサージを行う。
- 2) 午前中に他利用者も含めて、レクリエーション活動時に嚙下体操を行う。  
\*口腔内マッサージは、昼食前にマンツーマンで行う。



## 取り組み内容(3)

### 3.評価方法

- ※記録されたデータを整理し、分析を行う。
- ※職員へアンケート調査を行う。



## 事例

Tさん（女性） 68歳

### 【特徴】

食形態： 主食：全粥  
副食：細碎とペースト（50：50）  
水分：トロミ付

摂取量： 20～30%程度

その他： 流涎が多く、飲み込みが悪い。  
食事の好き嫌いもある。



## 取り組み結果(データ比較)

食事摂取量の平均値(%)

**7月に食形態が変更となっている。**

6月	主食	副食	汁物	お茶	ムセの頻度
朝食 (10日分)	45%	48%	30%	58%	50%
昼食 (10日分)	37%	36%	28%	89%	70%
夕食 (9日分)	36%	47%	20%	88%	66%
7月	主食	副食	汁物	お茶	ムセの頻度
朝食 (10日分)	67%	69%	41%	91%	80%
昼食 (10日分)	44%	43%	17%	80%	60%
夕食 (10日分)	42%	51%	25%	84%	90%
8月	主食	副食	汁物	お茶	ムセの頻度
朝食 (10日分)	84%	69%	30%	43%	50%
昼食 (10日分)	40%	40%	5%	47%	60%
夕食 (10日分)	39%	35%	8%	52%	70%

朝食の喫食率が上がったが、それ以外の大きな変化はデータ上確認することはできなかった。



## 取り組み結果(アンケートより)

- ※笑顔が増え、声がしっかり出るようになった。
- ※飲み込みが良くなり、ムセが減った。  
→食事摂取量が増えた。
- ※副食の形態を細碎に変更となった。
- ※汁物がトロミなしで召し上がっていただけるようになった。



## 取り組み全体の考察

- ※今回の取り組みで、食形態の変更に至ったのは、3名中1名であった。
- ※変更には至らなかったが、その2名についても「ムセが減った」「笑顔が増えた」「言葉が聞き取りやすくなった」との職員からの報告が挙げられている。
- ※利用者から「ありがとう。」との言葉をいただいている。

**利用者への関わり方や個別ケアの重要性を改めて実感することができた。**



ご清聴ありがとうございました。

